

**令和7年度  
運営に関する計画  
(最終評価)  
及び  
学校関係者評価**

**大阪市立五条小学校**

**令和8年3月**

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

本校の地域・保護者の教育に対する意識は大変高く、多くの児童が何らかの習い事に通っているということもあり、全国学力・学習状況調査等の学力調査においては、常に全国平均を上回っている。しかし、平均を大きく下回っている児童も数多く存在するなど、学力の二極化が顕著である。また、知識量が豊富な児童が多いにも関わらず、その知識を活用し表現する活動に対しては、学齢が上がるにしたがって苦手意識が強くなる傾向がある。

一方、この十数年で児童数が1.5倍増加しており、急激な児童数の増加の影響で、数年間学校内に空き教室といった余剰がなく、学校生活を送る上での環境は決して恵まれていない状態である。令和3年度に西校舎が完成したことで若干改善はされたが、通常学級が28学級あるので、講堂をはじめ、特別教室の配当時間は各学級週1時間しかない。運動場に関しても、体育学習時は複数学級での使用、休み時間時は学年毎の使用にするなど、のびのびと活動させることが非常に難しく、結果、体力・運動能力調査の数値は十分とはいえない。互いに十分な距離を取ることができず心身の摩擦が強くなり、ちがいを認めることが難しかったり相手の立場に立つことが苦手だったりする児童が多いことから、攻撃的な言動が飛びかい、大きなトラブルとなることが少なくない。一人ひとりを鑑みると「自分にはいいところがある」「将来に夢がある」「人の役に立ちたい」と思っている児童は大阪市の平均を大きく上回っているが、「学校生活の充実」という点については受け身であるという傾向が見られる。「楽しませてもらう」から「自ら楽しい集団にする」という意欲を引き出し、よりよい集団を作っていくことが今後の課題である。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

##### ・基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

##### ・基本的な方向2 豊かな心の育成

- 令和7年度の校内調査の「友だち一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### ・基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率5割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より3ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

**・基本的な方向5 健やかな体の育成**

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

**・基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進**

○令和7年度末の校内調査の「日々の授業で学習用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%以上にする。

**・基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり**

○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業中は3日以上、冬季休業中以外の休業期間においては1日以上設定する。

○令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修を充実させるために、主体的に行動したか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を10ポイント向上させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。また肯定的に回答する児童を95%以上とする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。また肯定的に答える児童の割合も含めると85%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。また肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。
- 校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を93%以上にする。
- 「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

##### 取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・日々の児童監護の徹底をはじめ、「いじめについて考える日」の取り組みを基盤として「いじめを絶対に許さない」を共通認識のもと児童が安心して通える環境づくりに努めることができた。
- ・生活指導連絡会や生活指導部会等を通して、日々の子どもたちの様子についての共通理解をより深め、情報を共有し、それに応じた教育活動を進められるような環境体制を整えた。
- ・児童会活動等さまざまな取り組みを行った。児童のアンケートをもとにした活動を、昨年度より充実させ、より児童が主体的に活動できる取り組みを行った。

##### 取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・学校内の様々な人権課題の解決に向かって、人権集会を基軸として、各学年の実態に応じた人権教育の取り組みをした。人権についての知識のみにとどまるのではなく、その知識を豊かな人権感覚につなげ、自他を尊重できる児童を育成するための、取り組みの在り方や、日々の生活の中での気付きを大切にすることができた。なお外国からの編入児童が急増する中、多文化共生教育の在り方を模索していく必要がある。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### 取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、国語科を中心に授業改善に取り組み、教員の授業力向上を図った。なおその成果は天王寺区の教員研究発表会で発表した。
- ・児童が自分の考えを深めたり、広げたりすることができるような授業を構築できるよう、研究部会や指導案検討会を計画的に実施し、国語科の学習指導案の検討を行った。

##### 取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・児童の体力・運動能力の向上を目指し、狭い校庭でも子どもたちが十分に体を動かすことができる活動を模索し、運動量確保・技術の習得に努めた。
- ・模範演技の動画に運動委員会の児童を登場させるなど、子どもたちがより主体的に取り組めるであろう学習内容を積極的に取り入れ、児童の意欲を高めることを大切にすることで、体育に対して苦手意識を持っている児童に運動の楽しさが伝わった。

##### 取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・事故やけがが起きる要因を理解し、安全に学校生活を過ごすことができた。またそれを達成するための児童の主体的な活動を学校保健委員会で発表した。
- ・自分の身体に関心を持ち、けがや病気を予防するための基本的な生活習慣を発達段階に応じて身につけることができるようになった。

##### 取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・児童が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、給食だよりや給食カレンダーを発行し、全学年で食に関する指導を実施した。
- ・食育月間や給食週間を実施し、給食への感謝や関心を高めた。
- ・給食委員会が中心となって、給食を残さずバランスよく食べようとする意欲が高まった。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### 取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・写真や図を用いたスライドの作り方・発表の仕方において、各学年の実態をふまえて系統立てた指導を進めた。
- ・前年度に行った効果的な実践を伝達し、今年度に生かすことができるようにした。
- ・タブレットの使用ルールについては多くの児童が守っているが、守れない児童も少なからず存在し、使用を制限せざるを得ない場面がある。情報モラル教育を含め、指導の在り方を検討していく必要がある。

## 取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・放課後の会議については、事前の準備等を確実にし、効率よく案件を検討できる体制を作った。最終退勤時刻等の意識も高まり、今年度は大幅に時間外勤務を削減することができた。今後は職員間の業務の平準化をめざし、研修等を充実させていく。

大阪市立五条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。また肯定的に回答する児童を95%以上とする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導連絡会や生活指導部会等を通して、日々の子どもたちの様子についての共通理解をより深め、情報を共有し、それに応じた教育活動を進め、児童が安心・安全に過ごすことができる環境体制を整える。</li> <li>「いじめを考える日」をはじめとして、人権教育部とも連携を図り、「いじめを絶対に許さない」を共通認識のもと児童が安心して通える環境づくりに努める。</li> <li>児童会活動等さまざまな取り組みを、児童中心に進めていく。学校や子どもたちの実態にあった取り組みを検討した上で、さらに異学年交流等を増やす。上級生を中心に、学校全体で取り組むことで、より主体的に学校行事にかかわり、自ら楽しい集団にする態度を育てる。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導連絡会等にあげられた課題を全体で共有し、解決につなげるための部会を原則月1回以上実践する。</li> <li>1学期の「いじめについて考える日」をはじめ、人権教育部との連携を図り、「いじめ」について、児童とともに考える場を年間1回以上設ける。</li> <li>色別集会、五条まつり、卒業おめでとう集会など、昨年度の取り組みを見直しながら実施する。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校内の人権課題に向かって、人権集会を基軸として、児童の実態に応じた人権教育を進めていく。月1回の人権教育部会で実態や取り組みについて共有したり、人権教育の授業準備を進めたりするなかで教員自身の人権感覚も養っていくことで、自他共によさを認め合える児童の育成に努めていく。</li> </ul>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回（年3回）の人権集会を計画的に行う。</li> <li>校内調査で「がんばった時、先生はほめてくれる」という項目について肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>取組内容①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は89%であった。生活指導連絡会での情報共有や、児童同士の関わりを大切にした行事や活動の積み重ねが安心して過ごせる学校づくりにつながったと考えられる。</li> <li>「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は87%であり、肯定的な回答も加えると97%であった。人権</li> </ul>

教育部との連携や1学期に行った「いじめについて考える日」を元に、1年間通していじめは絶対に許さない事を粘り強く指導し続けた成果であると考えている。

- ・「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は87%であった。児童会活動での異学年交流などを通して、役割を持って活動する経験が自己有用感の向上につながっていると考えられる。しかし、自己肯定感が十分に高まっていない児童も見られることから、個に応じた関わりや認める活動を一層充実させていく必要がある。

#### 取組内容②

人権教育部会では月に1回学年の様子や取り組みを話し合うことで校内の実態を把握することに繋がった。またその実態から人権集会や校内掲示の内容を精選した。人権集会は学期に1回、計3回を計画的に実施した。児童が経験したうれしかったことを募集し、その内容を深めて指導に繋げたり、多数の登場人物を多様な視点から捉えることのできる絵本「RED あかくてあおいクレヨンのはなし」を使用したりして、全校で共通のテーマとしつつも学年に応じた指導ができるようにした。また、人権集会後の学級での意見の交流の時間を大切にすることで、各学年の人権教育目標の達成をめざした。また教員がその取り組みの計画を立てること自体が自身の学びに繋がっている。GNP研修でも人権集会後の学級指導をどのように展開するか考えることで若手教員が人権教育について話し合いながら考え深めることができた。外国人教育では、中国語弁論大会に向けて参加児童だけでなく、学校全体で取り組んだ。また、民族交流会や講師を招いた異文化体験活動を通して、子どもたちが様々な国に関心をもつことができるようにした。

主に学年が中心となり児童の状況や課題を把握し共有することで、多数の目で日頃から指導を続けてきている結果、校内調査における「がんばった時、先生はほめてくれる」という項目について肯定的に答える児童の割合が91%となり目標を達成することができた。昨年度に引き続き、教員が継続的に児童との関わりを意識的にもっている成果であると考えている。

#### 次年度に向けての改善点

#### 取組内容①

- ・生活指導連絡会での情報共有だけでなく、児童の変化を早期に把握して、安心して過ごせる環境づくりを進めていく。
- ・いじめに対しての取り組みはその都度児童の実態に応じて、流動的に行っていきたい。
- ・自己肯定感を高めるために、異学年交流や行事を工夫したり、役割を持って活躍できる機会を増やしたりして活動を充実させていく。

#### 取組内容②

多文化共生教育の充実に向けてクラブ活動やゲストティーチャーを招く授業を企画する。ゲストティーチャーを招く授業を計画する際には、外部との連絡も必要になるので、計画的に進めていく必要がある。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を45%以上にする。また肯定的に答える児童の割合も含めると85%以上にする。</p> <p>○令和7年度小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。また肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。</p> <p>○校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。</p> <p>○「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、国語科を中心に授業改善に取り組み、教員の授業力向上を図る。</li> <li>・児童が自分の考えを深めたり、広げたりすることができるような授業を構築できるよう、研究部会や指導案検討会を計画的に実施し、国語科の学習指導案の検討を行う。</li> <li>・各教科において、単元や題材に即したペアやグループでの話し合いや学習したことを振り返る活動を取り入れることで、児童が興味や関心をもって学習に取り組めるようにする。</li> </ul>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した国語科の授業研究・討議会を各学年で年1回以上実施する。</li> <li>・研究部会・指導案検討会を年間に6回以上実施する。</li> <li>・対象教員による1人1回の公開授業を2学期末までに実施する。</li> <li>・GNP研修を中心に校内研修を年間10回以上実施し、教員の指導力向上を図る。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向4 健やかな体の育成】（体育）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の体力・運動能力の向上を目指し、狭い校庭でも子どもたちが十分に体を動かすことができる活動を模索し、運動量確保、技術の習得に努めていく。</li> <li>・子どもたちがより多様な種目に取り組めるよう、体育の学習の年間指導計画をもとに、計画的に授業を実施し、運動の楽しさを伝えるように努めていく。</li> </ul>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育カードを各学期1枚児童に配布する。</li> <li>・各学年、年間2単元以上ICT機器を活用した授業を行う。</li> <li>・ICTの活用方法の共有など、教員に向けた体育研修会を年に3回以上実施する。</li> <li>・各学年の年間指導計画をもとに、見通しをもって授業を行う。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向4 健やかな体の育成】（保健）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故やけがが起きる要因を理解し、安全に学校生活を過ごすことができるようにする。</li> <li>・自分の身体に関心を持ち、けがや病気を予防するための基本的な生活習慣を発達段階に応じて身につけることができるようにする。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回、学校保健委員会を開催する。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康委員会児童による「けがなくし隊」が校内を巡回して声掛けを実施したり、放送やポスターを作成したりして校内安全の啓発活動を実施する。</li> <li>・年に2回以上、「健康週間」を実施する。</li> <li>・毎月ほけんだよりを配布して、児童だけでなく保護者へもけがや病気の予防について啓発する。</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向4 健やかな体の育成】(給食)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食や健康への関心を持ち、バランスよく食べようとする食習慣を身につけることができる。</li> <li>・食べ物の3つの働きとそのグループの食べ物が分かるようにする。</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年において、年2回発達段階に応じた食に関する指導を行う。</li> <li>・日々の給食において、食についての動画を視聴する。</li> <li>・「食育月間」を6月、「給食週間」を1月に実施する。</li> <li>・9のつく日に「給食残さないデー」を設定する。</li> </ul>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p><b>取組内容①</b></p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の構築をめざし、国語科を中心に校内研究を進め、計画通り国語科の授業研究・討議会を各学年で年1回、合計6回実施することができた。授業研究に向けた指導案検討会を6回実施し、研究の視点に沿ってよりよい授業になるよう議論を行った。授業研究討議会では、ビデオ撮影された授業の様子を見てグループで討議し、全体で意見交流を行った。討議の視点を精選することで、その授業に関するだけでなく、研究の内容について深い討議を行うことができた。その後スクールアドバイザーからの指導助言を受けることで、授業改善に学校全体で取り組むことができた。今年度の研究の重点を「主体的に課題に向き合う『読みのめあてづくり』」、「対話的で深い学びにつながる『話し合い』」、「考えを深めたり広げたりする『振り返り』」の3つとして実践を進め、1月の天王寺区教員研究発表会において研究の成果を発表することができた。また、1人1回の公開授業を対象教員が2学期末までに計画的に実施することができた。GNP研修を含む校内研修は12回実施し、教員の指導力向上を図ることができた。</p> <p>1月実施の児童アンケートにおいて、「学習中、友だちと話し合うことで考えが深まったと思うことがありますか。(友だちと一緒に学習するのは楽しいですか。)」という質問に最も肯定的に回答した児童の割合は55%、肯定的な回答は88%であった。国語科を中心に各教科において、児童が主体的に問題解決に取り組めるような学習課題を設定したり、ペアやグループ、学級全体での話し合い活動や、学習の振り返りを授業に取り入れたりするを通して、児童が主体的で対話的な学習に取り組むことができたと考えられる。</p> <p><b>取組内容②</b></p> <p>小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合は75%であった。</p> <p>また今年度も子どもたちがより主体的に取り組めるように、1学期には水泳カード、2学期にはマット運動カード、3学期には縄跳び・駆け足カードを各学年の児童の実態に応じて配布した。前年度までに使用していたカードに加え、新たにカードを作成し配布することもできた。これらを体育の学習、休み時間に活用したことで、目標をもって運動に取り組むことができる児童もいた。体育発表会においても団体演技、個人走、団体競技を実施した。団体競技については昨年度の台風の目に加え、今年度は新たにスタートダッシュ綱引きを実施し、来年度以降の団体種目を学年別で固定化することができた。</p> <p>今年度は、スポーツテストの測定に関する研修、シナプソロジー研修、若手教員を対象としたタグラグビー研修を行った。研修内容を生かして、授業を実施している教員もいた。</p> <p><b>取組内容③</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、毎月の保健だよりの継続的な配布を通して、児童と保護者に向けて、けがや病気の予防に関する情報提供と啓発を行った。また、健康委員会による「けがなくし隊」の活動では、校内巡回による声かけや放送、委員会児童が作成したポスター掲示など、児童主体の安全啓発活動を実施した。これらの取り組みにより、児童が自ら安全や健康について考え、行動しようとする姿が多</li> </ul>
---

くみられるようになった。

・学校アンケートにおいては、「けがや病気に気をつけて学校生活を送ることができていますか」という問いに対し、94%の児童が肯定的に回答しており、昨年度の93%から向上した。この結果から、日常的な啓発活動や児童主体の取り組みが、児童の安全意識や健康行動の定着につながっていることが確認できた。

・学校保健委員会の開催や健康週間の実施を通して、教職員、児童、保護者が健康課題を共有する機会を設けることができ、学校全体で健康づくりに取り組む体制づくりを進めることができた。これらのことから、年度目標は概ね達成され、児童の安全・健康に対する意識の向上が図られたと評価できる。

#### 取組内容④

「バランスよく食べようとしている」という項目に肯定的に回答する児童の割合は89.3%で、目標を上回ることができた。栄養指導や、日々の給食時間に動画を視聴することで、食への関心を高めることができたと考える。9のつく日「給食残さないデー」に、給食委員会から残さず食べようと声掛けを行ったこと、「食育月間」と「給食週間」で「給食チャレンジカード」に取り組んだことで、より児童のバランスよく食べようとする意欲を高めることができた。給食の残食率の平均は、年間を通して3%を切っており、結果としても残さず食べることができている。

#### 下半期に向けての改善点

#### 取組内容①

今年度の校内研究の成果をいかして来年度の研究教科・テーマを設定し、引き続き教職員間で共通理解をはかりながら授業改善に取り組んでいく。児童が学習に対して主体的に取り組む、学習することが好き、楽しいと思えるよう、各教科部会や校内研修で指導方法の検討を重ねていく。

#### 取組内容②

新たな体育カードを取り入れ、児童の興味関心を引き出していく。

来年度から講堂が年中使えるようになるので、より年間指導計画に沿った指導を実施していく。

今年度の研修は、主にGNP教員を中心として実施した。来年度もその時点での職員や児童の課題に応じて研修内容を検討し、より多くの職員が参加できるものにしていく。

#### 取組内容③

・アンケート結果では高い肯定的回答が得られた一方で、依然として安全や健康への意識が十分に定着していない児童も見られる。今後は、学年や発達段階に応じた指導内容や方法を工夫し、児童一人ひとりが自分の生活と結び付けて考えられるような取り組みを進めていく必要がある。

・保健だよりについては、季節や学校生活の中で実際に起こったけがや病気の事例をより具体的に取り上げることで、児童や保護者が自分ごととして捉えやすい内容となるように改善していく。

・健康委員会の活動については、取り組みの成果や工夫点を児童放送などの全校で共有する場を設け、児童主体の活動がより実感できるような工夫を行い、次年度の活動へつなげていく

#### 取組内容④

引き続き、児童がすききらいせず、「バランスよく食べよう」とする意欲を持てるよう、給食残さないデーや食育月間、給食週間について取り組んでいく。また、全ての給食の残食率で平均を見た場合には、残食率が少ない傾向にあるが、主食や牛乳、魚のおかずを個別に見た場合には残食が多いこともある。そのため栄養指導や動画だけでなく、給食委員会から呼びかけを行うほか、学級担任のクラスでの声掛けも引き続き行っていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>○「学校園における働き方改革推進」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が「心の天気」を毎日入力し、教員が確認することで、児童の現状把握に努める。</li> <li>・写真や図を用いたスライドの作り方・発表の仕方において、各学年の実態をふまえて系統立てた指導を進める。</li> <li>・前年度に行った効果的な実践を伝達し、今年度に生かすことができるようにする。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用端末の使用率を平均85%以上にする。</li> <li>・指導計画をもとに各学年で1回以上、写真や図を用いたスライドを作って学習する。</li> <li>・前年度の実践をまとめた引き継ぎ簿を作成する。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人一人のスキル向上のためにGNPを中心に必要な研修を計画・実施する。</li> <li>・放課後の会議、打ち合わせをより効率的に行うために、事前の準備を確実に行う。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GNPを中心に校内研修の場を年6回以上実施する。</li> <li>・職員はおそくとも19時に退勤する。また水曜日は18時とする。</li> </ul>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>取組内容①</b></p> <p>「心の天気」の当日出席児童に対する入力率は、平均約90%であり、児童が朝、心の天気を入力する習慣は、定着しつつあると言える。ICTの学習への活用については、本校独自に作成したICTカリキュラムをもとに、各学年実践を進めてきた。ICT部会では、各学年の実践を交流し、年度末には今年度の実践を次年度に伝達する引き継ぎ簿を作成する予定である。</p> <p>学習用端末の使用率は、12月末時点で平均75.4%と、昨年度の同時期の75.8%とほぼ同じ数値となっている。ただし決して活用が進んでいないというわけではなく、調べ学習のためにWEB検索等を活用することが多いため、数値には表れていないが、児童は学習課題を解決するために、多くの場面で学習用端末を活用している。加えて前年度から数値が増えなかった一因として、生活指導上の問題も考えられる。とりわけ高学年において、学習用端末を使用するにあたってのルールを児童に守らせるのが難しくなり、使用方法を限定せざるを得ない現状があった。また、端末の不具合が頻発し、活用したくても学級の児童全員が使用できる状況にないことが多かったことも1つの要因であると考えられる。</p> <p>また、12月に新しい学習用端末が全学年に導入されたことを受けて、使い方に早く慣</p>

れることができるよう、ICT アシスタントと連携し、研修会を実施した。必要に応じて職員打ち合わせ時にミニ研修を開く等、教員のスキルアップを図っている。

#### 取組内容②

授業力の向上を目ざした全員参加の研究授業及び外部講師を招いた討議会を年間6回実施した。GNP 研修については、年度当初に職員に対して、今年度どのような研修を行っていきたいか調査をした上で、計画的に研修を実施している。今年度は1月末時点で9回実施しており、指標の6回をすでに上回っている。

働き方改革については、業務の総量が変わらない状態での勤務時間の縮減が難しい中、少しでも放課後の会議、打ち合わせを効率的に行うために、学年打合せ簿の発行・職員室前方のホワイトボードへの記入等を通して、教員間の情報共有に努めてきた。また、今年度は水曜日の音声ガイダンスのセットを17時にし、長期休業中に学校閉庁日を設けた。学校だよりや保護者メール等で啓発を行ってきた結果、教員の働き方に対する地域や保護者の理解につながったと考える。様々な取り組みの結果、退勤時刻に対する意識が高まり、職員はほぼ19時には退勤できている。教職員の一人当たり平均時間外労働時間の平均(12月までの累計)も昨年度29時間19分に対し、今年度は23時間56分と減少しており、「学校園における働き方改革推進」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合も96.3%であり、年度目標を上回っている。

#### 下半期に向けての改善点

#### 取組内容①

心の天気については、引き続き習慣的に入力できるようにしていく。

自分の考えを表現する手段として、SKYMENU Cloud の発表ノートや PowerPoint 等を活用し、写真や図を用いたスライドを作り、自分の考えを表現する学習活動をより計画的に実施していく。

#### 取組内容②

退勤時刻に対する意識は高まりつつある。今後も継続して会議や打ち合わせの効率化、職員のスキル向上、業務の平準化を進めていく。

1 総括についての評価

五条小学校は、児童一人一人がよりよく成長できるように取り組みを進めている。また90%近い児童が「学校が楽しい」と答えている。児童が安心して過ごせるようにするために、教職員で連携しながら児童監護を徹底するなどしている。いじめ対策についても力を入れているのが感じられ、「いじめは許されない」という項目で97%の児童が肯定的な回答をしている。

学習については、児童の表現力を高めるために国語を研究教科とし「主体的・対話的で深い学び」を目指して教材研究を積み、指導力の向上に努めている。体力については年々、児童数が増え、運動場の狭さや時間割上の制約等、根本的な問題は解決されないままだが、その中で様々な工夫を行っていることが感じられる。

またICTの活用についてはその環境や授業での活用方法等、年々向上していることが感じられる。職員の働き方改革についても時間外勤務時数が大きく削減されている。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。また肯定的に回答する児童を95%以上とする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。

評価A

- 「学校へ行くのが楽しい」とするために様々な取り組みがなされている。児童会活動は年々充実している。またいじめ対策にもかかわる児童監護について、教室を空けない体制をとり続けるのは大変だと思うが継続してほしい。
- 自分にはよいところがあるの項目が昨年度より上がっているのは、教職員の丁寧な関わりの成果だと思う。

年度目標：【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を45%以上にする。また肯定的に答える児童の割合も含めると85%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。また肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。
- 校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。
- 「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

評価 A

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 研究教科を「国語科」、重点を「話し合いと振り返りを大切にした授業づくり」として取り組み、講師の方が授業参観をしたり、助言をもたったりしながら、日々児童の学力向上に努めていることがわかった。また学校長も参観し、授業についての助言を受けているため、学校全体で取り組んでいることがわかった。
- 体育科の学習に必要な学習カードを作成したり、ICT 機器を使用したりして、体を動かす楽しさを味あわせている。そのことが体力向上へとつながっていく。
- 委員会活動を活用しながら、学校生活の日常に潜む危険を回避し、安全に過ごせるようにしていることがわかる。
- 給食時に動画を視聴させたり、食育の授業をしたりして食べる楽しさを味わわせることができている。委員会活動による食べ物クイズや給食アンケートをして、給食に関心をもつようになった

**年度目標：【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。

評価 B

- 昨年度と比較して授業での積極的な活用がよりすすんでいるのを感じる。
- 時間外勤務時間は昨年度より大きく削減されているが、学校の取り組みだけでこれ以上の削減は難しいのではないだろうか。

3 今後の学校園の運営についての意見

毎年、決して十分とはいえない環境の中、児童が安心して楽しい学校生活を送るため、そして学力・体力向上のために様々な取り組みを行っていることが分かった。ただ目標としている数値が常に昨年度を上回るように設定されており、これ以上数値を上げていくのには無理を感じる。数字も大切ではあるが現状を把握したうえで、妥当と思われる目標設定をした上で、様々な取り組みがなされることを期待する。